

## 裁定 34-3/10 ビデオによる証拠の使用についての制限

委員会が事実問題を解決する際にビデオによる証拠を使用して規則を適用することは妥当なことです(裁定 34-3/9 参照)。そうした証拠によりプレーヤーが規則違反をしていた、あるいはしていなかったということが分かる場合もあります。また、見つかっていない球がどこにあるのか、球がウォーターハザードの限界のどこを最後に横切ったのかなど、事実問題を決定する際にビデオによる証拠が委員会の支援となる場合もあります。

しかし、ビデオによる証拠は時として、プレーヤーたちやコース上の他の人が気づかない、あるいは合理的には気づくことができなかつた事実を明らかにする可能性があり、そしてそのことが複雑な問題を引き起こす場合があります。ゴルフはプレーヤー自身が規則を適用する誠実さを求められるゲームです。プレーヤー達は規則が要求する手続きに従うように努め、自らに罰を課す場合、または規則違反について疑問がある場合には他のプレーヤーや委員会に申し出ることなど、プレーのすべての局面において正直であることが期待されています。

ビデオ技術(特に高解像度によるものやスローモーションで再生されるズームアップされた画像)によってのみ認識でき、その他の方法では合理的に認識できない事実を明らかにすることは、プレーヤーが自らの誠実さによって行うというこのゲームの本質を弱体化させてしまう可能性があります。人間に通常求められる証拠よりも高い水準の証拠を得ようとしてビデオ技術による証拠が採用されるべきではありません。

このような理由により、次の 2つの状況においてはビデオによる証拠は制限されます。

1. ビデオが肉眼では合理的には発見できない事実を明らかにした場合。ビデオ技術により肉眼では発見できない事実を明らかにすることができる場合があります。例えば：
  - バンカーからストロークを行うときに、バックスイングでプレーヤーが無意識のうちにクラブがわからずに砂粒に触れている場合。
  - 1 回のストロークを行っている間に、クラブで球を 2 回以上打っていて(いわゆる 2 度打ち)、プレーヤーがそれに気づいていない場合。

このような状況で、その事実を肉眼で合理的に見ることは不可能であり、プレーヤーがその事実気づくことはできなかつたと委員会が結論づけた場合、たとえその事実が規則違反であることをビデオ技術が示していたとしても、そのプレーヤーは規則違反をしていなかったものとみなされます。裁定18/4 も参照して下さい。この「肉眼」の基準を適用する場合、問題はその状況を見ていたプレーヤーや近くにいる他の人が、そ

の事実を見ることができたかどうかであり、実際に起こったことをプレーヤーや他の人が見ていたかどうか、ではありません。

2. プレーヤーが合理的な判断を行った場合。規則を適用するために、プレーヤーがコース上の箇所、点、線、区域、距離、その他の場所を決定しなければならないことがよくあります。例えば：
- 球がウォーターハザードの限界を最後に横切った地点を推定する(裁定 26-1/17 参照)。
  - 救済のニヤレストポイント、ある地点とホールを結ぶ直線、最後にストロークが行われた箇所など、救済を受けるときに球をドロップしたりプレースする所を推定したり、計測すること。
  - 救済を受ける際に球が正しい場所にドロップされたかどうか、または再ドロップを要する位置に止まったかどうかを推定したり、計測すること。
  - 拾い上げた球をボールマーカーに基づいてリプレースすること、または球が偶然に動かされた場合に球を元の位置にリプレースすること。

これらの決定は迅速にそして慎重に行う必要がありますが、正確でない場合があります。プレーヤーはビデオ技術が時おり提供する情報の正確性に捉われるべきではありません。「合理的な判断」基準はこのような状況でプレーヤーの行った行動を評価するために適用されます。このような状況でプレーヤーが正確な決定をするために合理的に期待されることを行っていたのであれば、ビデオによる証拠によってそれが誤りであることが後で分かったとしても、プレーヤーの合理的な判断による決定は受け入れられます。

この基準を適用する場合、委員会は下記の点を考慮します：

- プレーヤーの行った特定の行動と、その行動を行ったことの原因。
- その行動についてのプレーヤーの説明。
- その場にいた他のプレーヤーや人からの情報。
- 特定の行動（パッティンググリーン上でマークした球をリプレースすることなど）は特有の不確実性を伴うことがあるその他の行動（プレーヤーのいる場所よりもかなり前の地点で球がウォーターハザードの限界を最後に横切ったところを推定することなど）よりもかなり正確に取ることができ得ることを認識した上で、決定が行われる種類に関連してその位置が誤っていた度合。

この「合理的な判断」基準は、プレーヤーが決定した箇所、地点、位置、線、区域、距離、その他の場所が、後になって誤りであることを示す他の人からの証言による情報に

も適用されます。

ビデオの使用とその他の証拠に対して上記の「肉眼」や「合理的な判断」の基準が適用されることは、プレイヤーの規則を誠実に適用する義務や、規則について疑問がある場合にそれを申告する義務を変えたり、軽減したりすることをまったく意図していません。この裁定を特定のケースに適用する場合、こうした基準に揃っていたかどうかを決定する際にすべての状況を評価することは委員会の責任です。